小学校高学年・山陽新聞社長賞

狂言新聞

総社市・総社東小５年　**秋山　花鈴**

狂言新聞

発行日
平成29年11月15日
発行者
総社東小学校
5年1組
秋山花鈴

おもろい狂言岡山に!!

和らいの種をまきましょう

平成29年2月5日倉敷市芸文館ホールにて、「花形狂言冬の大ツアー」の公演が行われた。子どもから大人まで、幅広い年齢の観客がお腹の底から笑った。古典の名作「附子」に始まり四つの新作が演じられ、古典芸能の枠を越えた新感覚の舞台がくり広げられた。

幕が上がり、狂言師茂山逸平さんのおもしろい解説とともに観客の目の前で舞台が組み立てられた。始めて見る人のために、狂言の特徴や楽しみ方、演目のあらすじ、みどころなど分かりやすく解説してくれた。公演が始まり舞台に登場した狂言師に、みんなくぎづけになった。重心を低くして、背すじをピンとのばし静かに歩く姿はとてもかっこよく、会場中の空気がふるえるような、よく響く声は、とても美しかった。古典「附子」では、太郎冠者と次郎冠者が扇でおいしそうに附子を食べる姿や掛け軸や茶腕をごう快に壊す様子にみんなが笑った。新作狂言では、天井からミラーボールが下りてきて、キラキラ回ったり、となりのトトロにそっくりのタヌキが登場する場面があった。これが狂言かと、おどろきながらも、会場は心のなごむ温かい笑いにつつまれた。

〈花形狂言のみなさん〉©飯島隆
左上より 逸平さん・千五郎さん・茂さん 左前は宗彦さん・童司さん

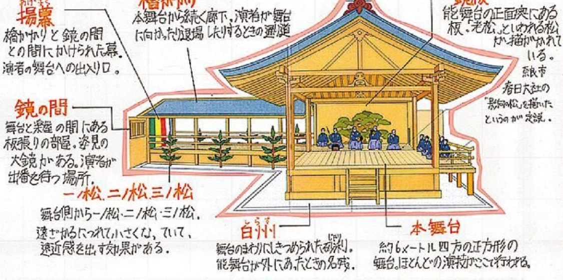
花形狂言会 HANAGATAとは

昭和51年に発足。発足当時のメンバーは千五郎（当時・正義）・七五三（当時・真吾）・あきらだったが、その後変遷を重ね、現在は、息子の世代、千五郎（正邦改め）宗彦・茂・逸平・童司の五人からなる。若手の実験的な公演の場として位置づけられており、大曲・秘曲の上演や新作狂言の制作・上演など、多岐にわたる活動を展開。

和らい

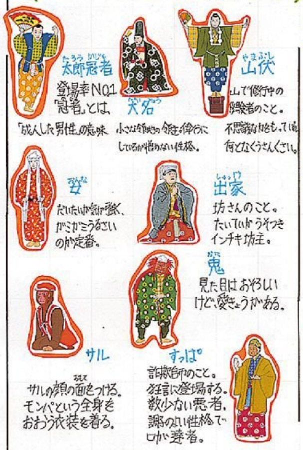
狂言の笑いは、ひぼう中傷で笑いをとるのではない[illegible]。これを茂山千五郎家では、「和らい」と呼びます。

美しい能楽堂


揚幕
橋がかりと鏡の間との間にかけられた幕。演者の舞台への出入り口。
橋がかり
本舞台から続く廊下。演者が舞台に向かったり退場したりするときの通り道
鏡板
能舞台の正面奥にある板。「老松」といわれる松が描かれている。奈良市春日大社の「影向の松」を描いたというのが定説。
鏡の間
舞台と楽屋の間にある板張りの部屋。姿見の大鏡がある。演者が出番を待つ場所。
一ノ松、二ノ松、三ノ松
舞台側から一ノ松・二ノ松・三ノ松。遠ざかるにつれて小さくなっていて、遠近感を出す効果がある。
白州
舞台のまわりにしきつめられた砂利。能舞台が外にあったときの名残。
本舞台
約6メートル四方の正方形の舞台。ほとんどの演技がここで行われる。

狂言は室町時代の吉本新喜劇

《ユニークなキャラクターたち》


太郎冠者
登場率NO.1
「冠者」とは、「成人した男性」の意味
大名
小さな領地の領主。偉そうにしているが憎めない性格。
山伏
山で修行中の修験者のこと。不思議な力をもっているが何となくうさんくさい。
女
たいたいが気が強く、がミがミうるさいのが定番。
出家
坊さんのこと。たいていがうそつきインチキ坊主。
鬼
見た目はおそろしいけど、愛きょうがある。
サル
サルの顔の面をつける。モンペという全身をおおう衣装を着る。
すっぱ
詐欺師のこと。狂言に登場する。数少ない悪者。調子の良い性格で口が達者。

《楽しむポイント》

1.自己紹介を聞こう。

人物が登場すると、まず自己紹介する。この人がどういう人で今日は何をしようとしているのか、おおまかな筋がつかめる。

2.狂言の音

狂言では、セリフだけでなく擬音も声に出して表現する。

- 茶腕を割った音→「ガラリーン、チーン」
- 掛け軸を破る音→「サラリ、サラリバサリ」

3.場面がかわる方法

舞台上で場面がかわるときは、人物が舞台上を三角に歩いて「〇〇に着いた。」と宣言することが合図となる。

花形狂言のみなさんにインタビュー

平成29年8月9日
京都観世会館にて、花形狂言のみなさんにお話を聞きました。

Q1.演じていて、一番うれしいのは、どんなときですか。

A、お客さんが笑ってくれたときです。演じる私たちとお客さんが一つになったと感じるときは、とても幸せです。花鈴さんのように若い人が興味をもってくれるのもうれしいです。

Q2.いつ、どのくらい、けいこしますか。

A、中学生のころから、20才ぐらいのあいだに、いろいろな演目を、何度も何度もけいこして覚えこみます。今も本番をふくめて、毎日が修業でけいこなんです。

Q3.けいこは、つらいですか。

A、けいこ中は、先生（お父さん）が、一人笑わず、じっと見ています。泣きたいぐらいつらいときもありました。

Q4.子どもの頃、大人になったら何になりたかったですか。

A、宗彦さん・郵便配達の人。小さいとき、バイクに乗って、ノンストップでポストに手紙を入れる配達員さんにあこがれていました。でもやはり、狂言師になりたいという思いはずっと心にありました。

Q5.新作狂言はどのように作りますか。

A、昔話や落語をもとに作られることが多いです。なかなかいい考えがうかばず、お酒を飲んでボロボロになりながら、やっとできるというときもあります。新しいものをつくるというのは、大変な作業です。

Q6.どこでの公演が多いですか。

A、私たちは、京都が一番多いです。次は東京です。京都や奈良では、寺社境内にある舞台で神様に捧げる奉納狂言も多いです。

Q7.海外公演で、外国の方も笑ってくれますか。

A、笑ってくれます。言葉が分からなくても身ぶり手ぶりで伝わることがたくさんあります。今は劇場に字幕が出るようになっています。

Q8.どこの国に熱心なファンが多いですか。

A、チェコです。父・七五三が狂言教室を開いたことがきっかけとなり、チェコ語で狂言を演じるグループができました。熱心に活動し、立派な賞を受賞しています。

Q9.狂言を楽しむコツを教えてください。

A、笑う準備をして、気楽に舞台を観に来てください。古典芸能というと難しいものと思う人が多いかもしれません。でもそんなことはないんです。笑うのに難しいルールはありません。おかしかったら、大声で笑ってください。

楽屋におじゃましました

1.

2.

3.

4.

太郎冠者完成

装束は想像以上に重かった!

宗彦さんと逸平さんに装束を着させてもらいました。

Q.メイクしますか。

A.歌舞伎と違って、メイクはしません。メイクしないと表現できないものは面を使います。髪型は自由。着物にあう髪型にします。

山伏の装束

装束はこんなふうにきれいにたたんであります。

Q.装束に着がえるのは、出番直前って本当ですか。

A.出番の5分ぐらい前です。夏場は衣装が重くて暑いし、冬場は足元がすごく寒いんです。それに座わると着くずれてしまいます。なので出番直前に着付けてくれる人と息をあわせて、手ぎわよく着ます。

はじめての能楽堂

会場は、暗くて、舞台だけが、明るく浮き上がっている感じで、きれいでした。

能舞台に上がらせてもらいました

床がツルツルしていて、歩きにくかったです。着物を着て、足袋をはいて歩くのは難しいだろうなと思いました。

京都観世会館能舞台にて

編集後記

今回、こころよく、取材に協力して下さった花形狂言のみなさん、茂山狂言会事務局のみなさんに、心から感謝します。ありがとうございました。狂言の楽しさをみなさんに伝えることができたら、とてもうれしいです。

調べた本

- 和伝書・狂言・茂山千五郎家の和らい　淡交社
- 狂言　茂山宗彦・茂山逸平　私達がご案内します。アリス館
- 能と狂言の図鑑　国土社

とにかくいっぺんみてみられぇ!!

私のオススメ 演目ランキング

1位、寄せ笑い（新作）
かけあいの合図の真彦頁がおもしろい。

2位、水掛聟
聟と舅が田の水を取り合う場面が好き。

3位、蝸牛
山伏をかたつむりだと思う太郎冠者がおかしい。

狂言大好き

「狂言？難しくて分からないかも。」なんて心配はいりません。小学生の私でも、とにかく笑えます。ちょっとユニークな登場人物のおもしろおかしいやりとりをみたら、笑わずには、いられません。狂言をみて笑うと楽しくなって元気がわいてきます。後楽園など岡山でも、いろいろなところで狂言を楽しめます。難しく考えず一度舞台を観て下さい。

寸　評

狂言の魅力を丁寧に紹介しています。倉敷で行われた公演や京都を拠点に活躍する狂言師らをしっかり取材しています。お薦めの演目、狂言を楽しむポイントなども掲載し、読み応えがあります。

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2018年2月17日掲載